特集

新春ごあいさつ

会頭
株式会社ワコールホールディングス 名誉会長
塚本 能交

京都経済の未来にむけて、新たなステージへ踏み出そう

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

本年の干支は、「甲辰（きのえたつ）」です。「辰」、すなわち龍は十二支で唯一架空の動物であり、現実を超えたパワーがダイナミックに働き、変化をもたらすと考えられています。昇り龍のように活気あふれる一年にしたいものです。

今、京都経済全体は持ち直し基調にありますが、原材料・エネルギー高、人手不足や賃上げ等、事業者には厳しい経営環境が続いています。四〇年ぶりとなる物価上昇の中で、デフレを完全に脱却し、新たな経済のステージに移行していくためには、労務費を含む適切な価格転嫁と生産性向上を進め、あらゆる事業者が物価上昇に負けない持続的な賃上げができる環境を整備し、経済の好循環を生むことが不可欠です。

加えて、課題解決・目的実現に向けた新たな挑戦する場として地域を変革する「ローカル・トランスフォーメーション」の推進が、今後重要になると考えています。コロナ禍をきっかけに急速に進んだデジタル化によって、人々の生活様式やビジネススタイルが大きく変化し、価値観も多様化しました。時間や場所に捉われない柔軟で多様な働き方が広がる中、地方創生の点からも、人財を地域に定着させることが求められています。

京都には伝統からハイテクまで多岐にわたる産業を担う企業と、大学や研究機関等、多様な産学が集積しています。一方で現在十五万人の学生が学ぶ街でありながら、その多くは卒業後に離れてしまいます。産学が協働して人財を育て、企業も「働きがい」や「働きやすさ」といった魅力を発信することで、人財が京都に定着する環境を構築することが必要と感じています。

同時に、培われてきた文化や風情等、京都の魅力を国内外へ発信し、まちとしての求心力を高めることも重要です。京都商工会議所が整備を進め、二月に完成を迎える「文化と産業の交流拠点（仮称）」を活用しながら、文化を活かした産業振興と新たな価値創造に挑戦してまいります。

また来年四月の大阪・関西万博の開幕に向け、来場者を京都へ呼び込むべく、京都が持つ文化と産業の魅力を国内外に発信する必要があります。観光誘客のみならず、投資や人財を呼び込み、波及効果をしっかり取り込めるよう、引き続きオール京都で取り組んでまいります。

京都経済の未来に向けて、「ＶＩＶＩＤ ＫＹＯＴＯ ～しなやかに ともに いきる～」のスローガンのもと、会員の皆様とともに新たなステージへと進む一年にしたいと考えております。皆様の一層のご支援とご協力を心からお願い申し上げまして、新年のあいさつとさせていただきます。

令和６年能登半島地震により犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復旧・復興を衷心よりお祈り申し上げます。

副会頭
株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループCEO
堀場 厚

変化の激しい世界の潮流への挑戦

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は私自身、海外出張を本格的に再開し、欧米やアジアなど、数多くの国を訪問することができました。海外を訪れる度に日本が世界の成長から徐々に取り残されていることを実感し、多くの企業や政治家が「井の中の蛙」状態にあることに強く危機感を覚えた一年でした。円安に加えて人口減少や生産性の伸び悩みなど、私達日本人に突き付けられた現実の課題から目を反らさず、この激動のグローバルな時代を生き抜くために、われわれ一人ひとりが世界に目を開き、失敗を恐れず挑戦する気概を持ち続ける必要があります。

来年には「大阪・関西万博」や「けいはんな万博」の開催も予定されています。日本の底力を世界に向けて大いにアピールし、いち早く「失われた30年」から脱却し発展することを祈念し、新年のご挨拶といたします。

副会頭
京セラ株式会社 代表取締役会長
山口 悟郎

激動の時代に基軸となる判断基準をもつ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年はロシアによるウクライナ侵攻に加え、中東においてもイスラエルとハマスの軍事衝突が激化するなど、混迷を極める一年となりました。また、国内においては、大きな企業不祥事が世間の批判を浴び、リーダーの経営判断のあり方が厳しく問われた年でもありました。

このように激動する時代環境の中において、経営の舵取りを誤ることなく、企業を正しい方向へと導いていくためには、常に自ら変革を志すとともに、周囲の環境に左右されることのない確固たる判断の基軸をもつことが求められます。

悠久の歴史を紡いできた京都には、幾多の戦乱や危機を乗り越え、未来を紡いできた先人たちの知恵が遺されています。そうした歴史の叡智を羅針盤としながら、京都経済が大きな飛躍を遂げる一年となるよう、微力ながら副会頭として尽力してまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

副会頭
株式会社村田製作所 代表取締役会長
村田 恒夫

京都の産業・経済が飛躍する年に

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は２０２０年からのコロナ禍が収束し、ポストコロナ社会に向けた動きがようやく本格化した一方で、物価高などが重荷となり、景気の回復がなかなか実感できない一年でありました。

ポストコロナの２０２４年は、世界的なインフレやエネルギーの高騰、世界各地での地政学的リスクの顕在化などで厳しい経営環境が続くと思われますが、コロナ禍を経て急速に普及したデジタル化・リモート化などによるビジネス環境の変化に対して、次の一手をどう打つかが重要な課題となってまいります。このような状況のなか、２０２４年が京都のさまざまな分野の知恵の総合力によって、産業・経済が昇龍の如く飛躍する年、「社会変化を好機に変える」一年となることを願っています。会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副会頭
株式会社京都銀行 代表取締役会長
土井 伸宏

「異次元」の先へ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

２０１３年の異次元金融緩和から10年余りが経過しました。10年ひと昔。物価高や円安がもたらす悪影響が懸念されるなど、経済構造や優先課題も相当変わりました。

コロナ5類移行で諸制約は解除されましたが、経済正常化の扉が開いたその先には、人手不足、賃上げ、生産性向上のほか、脱炭素、人権、地政学リスク対応といった課題まで、企業が持続的成長を目指すうえでの高い壁が連なっています。

飛龍の如くスイスイと超えていけるはずもなく、眼をしっかり見開き足元を確認しながら、一歩を積み重ねて乗り越えていくしかありません。

異次元でなくとも、むしろオーソドックスで構わないので、いま為すべきことを直視し、ためらわず実行に移す経営が求められます。

引き続き副会頭として尽力してまいりますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

副会頭
株式会社トーセ 代表取締役会長兼ＣＥＯ
齋藤　茂

今年はチャンスの年

謹んで新春の祝詞を申し上げます。

昨年は、ようやく通常の世の中に戻ると思っていましたが、ロシアによるウクライナ侵攻はまだ続いており、新たにパレスチナ・イスラエル戦争が勃発。原油高や円安が続いていますので依然として予断を許さない状況です。

日本ではインバウンド需要が活況で悦ばしい反面、京都ではオーバーツーリズムが問題です。実は、訪日外国人の影響もさることながら、日本人の国内旅行の需要がコロナ禍前の水準に回復していることが、大きな原因のようです。加えて、コロナ禍に宿泊業、飲食業、旅客運送業等から大量の人材が離職し、人手不足になっていることも事態に拍車をかけています。

このような変化の時には、必ずチャンスがあります。世の中のさまざまな動きを意識しながら、今年が良い年になるようにチャンスを見つけていきましょう。

本年も、会員企業の皆様と新たな京都の価値を創り出していけるよう、微力ながら副会頭として尽力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

副会頭
学校法人大和学園 理事長
田中　誠二

「ひと」、知恵と価値創造の源泉

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は京都の四大行事と呼ばれる「葵祭」「祇園祭」「時代祭」の三大祭りと「五山送り火」が揃って従来の形で開催されました。また、文化庁の京都移転の実現とともに文化観光と食文化の振興を図る推進本部が設置され、10月の訪日外客数がコロナ禍後初めて２０１９年同月を超えるなど、京都観光と社会経済の力強い回復の兆しが見られた一年でした。

いよいよ、「大阪・関西万博」まで残り４５０日。京都は日本の博覧会発祥の地でありＳＤＧｓ先進都市でもあります。京都には豊かな自然や文化、学術、藝術があり、万博はその魅力を存分に国内はもとより世界へ発信する好機だと考えます。

今年は、知恵と価値創造の源泉である「ひと」に焦点を当て、自然や環境、暮らしとの調和を重視。人・企業・文化の多様なつながりを構築し、あらゆる命や個性が輝き共に成長する京都経済の未来と、その担い手を創造してまいります。

副会頭
オムロン株式会社 取締役会長
山田　義仁

時代のニーズに応え、新たな挑戦を

謹んで新春のお慶び申し上げます。

昨年は、日本国内でも新型コロナウイルスに伴う様々な規制が解除され、ようやくコロナ前の活気が戻り、京都にも多くの観光客が訪れるようになりました。一方で、世界を見渡すと、依然として余談を許さないロシア・ウクライナ情勢など、混乱も継続しています。

新しい年が幕を開け、私たちの前には大きな可能性が広がっています。ＡＩやロボティクスのさらなる技術進化、サステナビリティへの関心の高まりなど、様々な分野での進展が期待されます。このような時代のニーズに応え、我々が新たな領域・分野・課題に挑戦することが、京都経済界のさらなる発展に繋がると信じています。

本年も副会頭として尽力してまいります。発展には会員企業の皆様方のご理解とご協力が欠かせません。今後も一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。